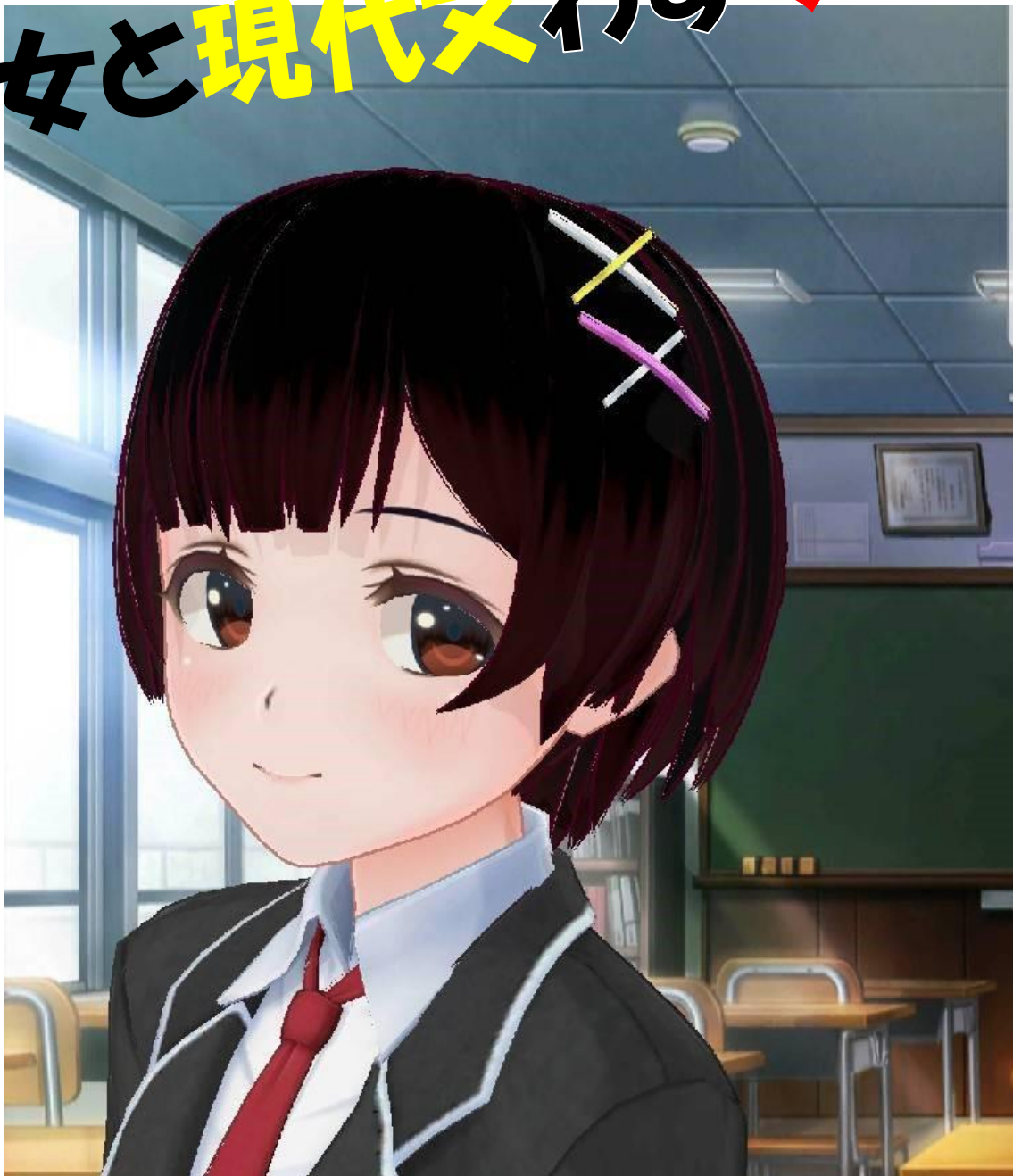


彼女と現代交わらず♥



に使ってくれると嬉しい...

月あかり雪あかり花あかり 青木玉

OO あかりって何？

月あかり⇒月の光。太陽の光をうけた反射光

雪あかり⇒すべてを覆いつくした雪が、互いに白く引き立てあう

花あかり⇒白に近い色の花が群がり咲く中に立つとなんともなく明るく感じられる

著者のイメージ

全体⇒いい響き

あかり⇒温かみのある人懐かしさ

月・雪・花⇒音読み…セツゲツカ(セツゲツカ)

訓読み…つきゆきはな

質の異なる美しさが互いに補い合って **それ以上の美しさは考えられないほどの風情**

⇒最上美。最高の美

(参考)雪月花…雪と月と花。四季の自然美の代表的なものとしての冬の雪、秋の月、春の花。

四季おりおりの風雅な眺め。四季の自然美の象徴。

テストに出そう…

p8の「それ」とは何を指しているか⇒雪月花そのもの

月

雪 + あかり…灯火ではなく、それ自身が光を放つものでもない

花

(参考)白 居易…日本でバカ受けした中唐の詩人。

詩⇒琴詩酒、友皆抛我 (琴詩酒、友皆我を抛つ)

雪月花、時最憶君 (**雪月花**の時、最も君を憶う。)

大伴家持の歌(万葉集)

雪の**花**に照れる**月**夜に梅の花 折りて送らむ愛しき児もがも(愛しい子に梅の折った枝を送りたい(訳:リア充うらやましいぜ。))

本当の雪あかりを知らない

⇒本当の雪あかりって??

本来：一面すべてを覆いつくした雪が、白く引き立てあって明るく見えるもの

筆者：庭の植え込みに雪がかぶり、何もかもが白く浮き立って見えた。

「綿帽子をかぶったように…」⇒擬人法

「記憶の包みを上下ひっくり返して探し…」

⇒・暗喩

・頭の中にしまい込まれていた記憶を思い出せる限りすべて思い出して、該当するものがないか検討していくこと

「記憶の糸を手繰り寄せた」

⇒たくさんの記憶の中から手掛かりになりそうな記憶の断片を見つけ出し、それを頼りに詳細を思い出していく過程→「しでこぶしの花」にまつわる思い出

春先→気が抜けない

なぜか⇒芽吹きや開花などの季節の変化のさまを見逃してしまう恐れがあるから

母の友人から送られてきた花と手紙

「せめて一枝なりともご覧ください」

⇒花好きの母に、少しでも見てもらいたいという思い

山で咲く花の姿を見られなかった母への気遣い

「あんたこれを持って庭に出てくれない？」

⇒暗い山に咲くしでこぶしの雰囲気味わいたかった。

→頭の後ろに手をまわして花を高く掲げた

※母の友人→闇に浮かぶ花のさまを凝然という言葉で伝える

⇒母の友人がみた「花あかり」の光景

→腕も胴も木になった思いの数分

⇒しでこぶしの花の枝と一体化し、自分も自然の一部になったような気持ちで過ごした。

「ありがとう、もういいよ。」

⇒山で咲いている花の雰囲気を味わうことができた

花を送ってくれた友人や花を持って庭に出てくれた娘へのお礼の気持ち

山の中にたった一人(擬人化)

⇒しでこぶしに対する愛着 孤高の姿に思いを馳せる

母が見た「月あかり花あかりの贈り物」の光景とは何か

⇒暗闇の中でしでこぶしの花が浮かびあがるように輝いているところに月の光が加わり、その輝きがいっそう増した光景。

語句

あるかなし…あるのかないのかわからないほど、ごくわずかな様子

気任せ…気分次第

息をのむ…驚いてハッとすること

とみこうみ(左見右見)…あちらを見たり、こちらを見たりすること

眼福…目の保養、他では見られないようなものを見ることができた幸せ

凝然…じっとして動かないさま

ルリルリさんの復習プリント

問1 傍線部1(つきゆきはな)について、このような読み方をなんというか

A 訓読み

問2 傍線部2(それ以上の美しさは考えられない風情)について、これはどのようなことを表しているか。

A 雪月花の美しさが最上美であること。

問3 傍線部3の「それ」のさす内容を答えて。

A 雪月花そのもの

問4 傍線部4(本当の雪あかり)について、これはどのようなものなのか。

A 一面すべてを覆いつくした雪が、白く引き立てあって明るく見えるもの

問5 傍線部5(みんな丸く綿帽子をかぶったよう)で、使われている表現法は？

A 擬人法

問6 傍線部6の「あれ」のさす内容をこたえて。

A 庭の植え込みに雪がかぶり、何もかもが白く浮き立って見えた様子

問7 傍線部7(記憶の包みを上下ひっくり返して探しても)、8(記憶の糸を手繰り寄せた)は隠喩表現だが、それぞれ具体的にはどのような状況のことを言っているか。

- A ⑦ 頭の中にしまい込まれていた記憶を思い出せる限りすべて思い出して、該当するものがないか検討していくこと
- ⑧ たくさんの記憶の中から手掛かりになりそうな記憶の断片を見つけ出し、それを頼りに詳細を思い出していく過程

問8 傍線部9(気が抜けない)について、それはなぜ？

A 芽吹きや開花などの季節の変化のさまを見逃してしまう恐れがあるから

問9 傍線部10(せめて一枝なりともご覧ください)について、ここは手紙の送り主のどのような思いが込められているか

A 花好きの母に、少しでも見てもらいたいという思い など

問 10 傍線部 11 の、「手紙」の送り主は母とどのような関係にあたる人と考えられる？

A 母の友人

問 11 傍線部 12(あんたこれを持って庭に出てくれない)について、なぜこう言ったか。

A 暗い山に咲くしでこぶしの雰囲気味わいたかったから

問 12 傍線部 13(頭の後ろに手をまわして花を高く掲げた)について、なぜこうしたか。

A 母親に、母の友人のみた光景に少しでも近いものを見せるため

問 13 傍線部 14(腕も胴も木になった思いの数分であった)の表現から、筆者は
どんな数分を過ごしたと考えられるか。

A しでこぶしの花の枝と一体化し、自分も自然の一部になったような気持ちで過ごした。

問 14 傍線部 15(ありがとう、もういいよ)についてここに込められた母の思いを2点あげて

A ・山で咲いている花の雰囲気味わうことができた
・花を送ってくれた友人や花を持って庭に出てくれた娘へのお礼の気持ち

問 15 傍線部 16 は「しでこぶし」の木を擬人化した表現だが、筆者は「しでこぶし」に
たいしてどのような思いをもっているか。

A しでこぶしに対する愛着 孤高の姿に思いを馳せている

問 16 傍線部 17(月あかり花あかりの贈り物)の表現をもとに、この日母が見たと思われる
情景を説明しろ

A 月の明かりが降り注ぐ中にしでこぶしの花が白く浮かび上がるように見えた
最上美の光景